

大洗応援隊！ ～広げよう交流の輪 踏み出そう新たな一歩～

ボランティア

代表者：理学部理学科 3年 小沼 里沙

連携先

大洗町議会、髭釜商店街、大洗町役場まちづくり推進課、大洗町商工会、京都大学防災研究所

顧問教員

伊藤 哲司（人文学部・教授）

参加者

小野寺 藍（教育学研究科障害児教育専攻 M2）
柴田 裕輝（理工学研究科理学専攻 M2）
沢村 浩平（理学部理学科 4年）
加藤 成美（人文学部人文コミュニケーション学科 4年）
武田 佑穂（人文学部人文コミュニケーション学科 4年）
細萱 真希（人文学部人文コミュニケーション学科 4年）
宮崎 泉（人文学部社会科学科 4年）
小沼 里沙（理学部理学科 3年）
星野 春奈（理学部理学科 3年）
松田 健佑（人文学部社会科学科 3年）
鈴木 菜々（農学部地域環境科学科 2年）
小野寺 哲（工学部電気電子工学科 1年）
細川 顕大（工学部知能システム工学科 1年）
青山 実樹（理学部理学科 1年）

プロジェクトの概要

<プロジェクトの背景>

「大洗応援隊！」とは、東日本大震災を受け、大洗町の復興支援を行うことを目的として2011年5月に創設された社会的ネットワーク組織である。大洗町での活動に関心を抱いて集まった学生や社会人によって構成されており、Face bookのグループ機能を利用して情報の共有を行っている。現在は茨城大学の学生が中心となって活動している。2012年9月より、地域住民や観光客の交流の場になることを目指して、大洗町の髭釜商店街の空き店舗を活用した「ほげほげカフェ」を隔週土曜日に運営している。『ほげほげ』とは大洗の方言で「心ゆくまでたっぷりと」という意味である。

これまでの成果としては、知名度が徐々に上がり常連客が増えたこと、イベント時は他団体との協力もできたことなどがあげられる。しかし、2016年4月にカフェ利用者にアンケート調査を実施したところ、「外からカフェだとわかりにくい」等の意見が寄せられ、一部の人にしか認識されていないことが窺われた。また、今までの活動を振り返ったところ、深刻な人手不足ゆえに地域からの依頼にも思うように対応できず、地域連携がなお弱いという問題点も見つかった。以上のことから、今年度改善すべき課題は、カフェの認知度の向上、人手不足の解消、地域との連携の3つである。

<プロジェクトの内容・目的>

●目的

髭釜商店街をはじめ大洗町の様々な団体と連携し、賑わいの継続、更なる発展のために、防災の町づくりや地域住民と観光客のネットワーク形成など多角的な視点から地域振興に携わる。

●内容

今年度はカフェ運営、イベント開催、情報発信に加え、カフェの認知度の向上、人手不足の解消、地域との連携に力を入れて活動を行った。また、商店街のジオラマ作成と「大洗ほげほげマップ」の改訂・増刷を実施した。さらに、大洗町でのイベント補助や大洗町商工会との連携を行った。

<活動日程>

通年	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェ運営（隔週土曜日、大洗町のイベント時） ・大洗町商工会と連携し、商店街店舗の缶バッジを作成 ・【10月～】盲人松浦さんによる昔話の定期開催（月1で実施）
----	--

7月	<ul style="list-style-type: none"> ・バス釣り大会手伝い ・AQUA SOCIAL FES!運営補助 ・防災ゲームクロスロードイベントの開催
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ポエムde夏祭運営補助 ・「八朔祭」に参加
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ハゼ釣り大会の手伝い ・参加型音楽祭「ほげfes」開催
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城大学茨苑祭での活動PR ・あんこう祭りへの参加

12月	・茨城大学生地域活動発表会
1月	・大学での講義「茨城学」での活動PR

プロジェクトの成果報告

<今年度の成果>

●カフェの認知度向上

大洗町の髭釜商店街の空き店舗を活用した「ほげほげカフェ」を隔週土曜日と大洗のイベント時に合わせて運営した。カフェ利用者を対象に実施したアンケート調査よりカフェの認知度が低いことが窺われたため、今年度はカフェの認知度向上のための活動に力を入れた。7月には「防災ゲームクロスロード」、10月には観光客からの持ち込み企画である参加型の音楽祭「ほげfes」を昨年度に引き続き行った。

防災ゲームクロスロードは、自分が災害に遭遇したとき、どう行動するかを考え、意見交換を行うシュミレーションゲームである。今年度はカフェだけでなく、「大洗町親子ふれあいセンターきらきら」でも行った。これによって、カフェの認知度向上だけでなく、町民や学生の防災意識を高めることができた。

ほげfesでは、大学内のサークルや地域から演奏者としての参加の他、観客として多くの地域住民や観光客が集まり幅広い層の交流の場とすることができた。イベントを通して大洗応援隊!の認知度を上げることができた。



「大洗町親子ふれあいセンターきらきら」における防災ゲームクロスロードの様子

●人手不足の解消

大学構内でのポスター掲示やチラシの配布のほか、大学の講義内で大洗応援隊！の活動の紹介を行い、協力者を募った。しかし人手不足の解消には至らず、人を集めることの難しさを実感した。活動に参加している学生が減少していく中で、今までと同じような活動を続けていくことは、学生一人一人の負担が増えてしまうため困難であると考えられる。今後も人手不足の解消に力を入れつつ、少人数でもできることを考えて活動を続けていきたい。

●地域との連携

商工会と連携し、商店街の多店舗の缶バッジづくりを行った。商工会との交流が増えたことにより、直接的に地域の学生に対しての要望を知ることができた。また、商店街のジオラマ作りを行った。「大洗ほげほげマップ」は、2013年に作成され、昨年度改訂をしたが、店舗情報の変更が多く見受けられたため、今年度も商店街の店舗を回り、変更点を伺った。さらに、「大洗ほげほげマップ」への新店舗の追加・変更点の修正・増刷を行い、大洗町の商店街の現在の情報を知ってもらうことができた。地域住民の方から昔話会をカフェ内で行いたいという要望を頂き月に

一回の頻度で実施した。その結果、カフェが大洗町における歴史を伝える場所となり、地域により密着した活動を行うことができた。



商店街ジオラマの一部



昔話会の様子

<外部からの評価>

大洗町の議員の方から、「商店街や商工会の方々は、『ほげほげ』といえば「大洗応援隊！」で運営しているカフェのことだと認識しており、町長も、商店街の話になると、『ほげほげ』という言葉が出てくる。」というお言葉をいただき、カフェの認知度を上げることができたと感じた。また、お客さんからは、「イベントで初めてここへ来たが、また利用したい。」「ここに来れば仲間に会えるから、カフェの存在がありがたい。」「商店街には休憩できる場所がないので、足休めの場として利用できるカフェの存在はありがたい。」といった声を多く頂き、「大洗応援隊！」の活動の継続を望む多数の声を聴くこ

とができた。



カフェ店内の様子

<今後の課題と展望>

今年度はカフェの知名度を上げることや、さらなる地域との連携に力を入れた。その結果、カフェに来る人の年齢層も昨年度までと比べ、より広がった。「大洗応援隊！」の活動に興味・関心を持ってくれる住民の方も現れたり、他のボランティア団体と相互協力も生まれたりしており、活動の幅を徐々に広げられている。「10年先も続くカフェ」を目指し、これからも町の活性化に尽力していきたい。